

“現場で起きうる食物アレルギー”について

先日、春日井市にあります「こどもゆめクリニック」より小児科医の伊藤 淳先生をお招きして、“園児の食物アレルギー”について講演をしていただきました。

近年、食物アレルギーを持った子どもたちが著しく増加している中で、学校給食等でアナフィラキシーショックによる死亡事故のニュースも耳に新しく、野外活動において子ども達の食事に気を使うことも多く、研修会を行いました。

目からうろこの落ちるようなお話も多く、本当に勉強になりました。

[アレルギー]ってなに？

近年、日本では国民の3人に1人が何らかのアレルギーを持っていると言われています。本来、私達の身体には細菌やウィルスなどの病原体の侵入から身体を守る「免疫」という働きがあります。ところが免疫が有害な病原体ではなく、

本来無害なはずの食べ物や花粉など(アレルゲン)に過敏に反応して私たち自身を傷つけることがあり、これを「アレルギー反応」と呼んでいます。

その中でも「食物アレルギー」は、ここ15年ぐらいの間に急増し、乳製品、卵はもとより、果物、野菜、魚介類などによる食物アレルギーも報告されています。対策については、色々な意見はありますが、現在のところ確実な原因は解っていません。

[アナフィラキシー]ってなに？

アレルゲンの侵入により複数の臓器に全身性にアレルギー症状を起こさせ、生命に危機を与えうる過敏反応をアナフィラキシーといいます。アナフィラキシーのうち、症状が現われてから数分後に血圧が下がって、ショック状態に陥った物をアナフィラキシーショックといいます。

典型的な症状としては

じんましん・紅斑・呼吸困難・めまい・腹痛・下痢・意識障害があります。

じんましんなどの皮膚症状はアナフィラキシーの最初の症状であることが多く、8～9割に生じると言われています。

恐ろしいアナフィラキシーの[症状]

- ① 咽頭浮腫による軌道閉塞 →→→しゃがれ声や発声困難
- ② 不整脈やショック →→→どうき・めまい→→→死に至る可能性あり

アナフィラキシーの[原因]

- ① 食べ物(卵・小麦・そば・ピーナッツ・えび等)
- ② 虫さされ(ハチ・アリ・ムカデ)
- ③ 薬物(抗生物質・解熱剤・ゴム製品)
- ④ 運動や寒冷・日光など

どんな時にアナフィラキシーを疑うの？

食事を摂った後、ハチに刺された後、薬を飲んだ後

身体の異常を訴えたり、観察できた場合にはまずアナフィラキシーを疑い、早期に認識・対処および治療をすることが重要です。嘔吐や腹痛・下痢・ジンマシンはもとより、血圧低下による目まいや倦怠感などもよく起こる症状です。その際失神や失禁を伴うこともあり、重症になると死に至る可能性がある一刻を争う病態です。



☆119番通報と現場での注意点

- ①疑わしい症状が確認された時は、まず 119 番通報をしましょう。
- ②食物アレルギーを持っている子の家庭とは常に連絡を密にしておきましょう
- ③**エピペン**を持参している子は、すぐに躊躇せず接種しましょう。
- ④市販されている携帯用酸素ボンベを園内に準備し、救急車が到着するまで対応しましょう。
- ⑤血圧低下が見られるときは、足を高く上げて横向きに寝かせておきましょう。
- ⑥排尿、排便を訴えても、救急車が到着するまで寝かせておきましょう。

[エピペン]って？

エピペンはアナフィラキシーが現われた時に使用し、医療機関で治療を受けるまでの補助治療剤です。使用方法を保護者からしっかりと説明を受け、怖がらずに扱えることが大切です。

